

● 拠点校の取組 ●

広島大学におけるアクセシビリティ支援と 人材育成プログラム

岡田 菜穂子

(広島大学 アクセシビリティセンター特任助教)

広島大学では、全ての学生に質の高い同一の教育を行うことを基本理念に、全学体制で「高等教育のユニバーサルデザイン化」を推進している。「高等教育のユニバーサルデザイン化」とは、大学等において、例えば、障害学生、留学生、社会人学生等、多様な学生が在籍することを想定して、あらかじめ教育環境を整備することである。具体的には、一、アクセシビリティ支援体制の整備、二、障害学生等へのアクセシビリティ支援、三、支援者育成を含めた教育・人材育成プログラムの実施等である。以下、これらの取り組みについて概要を紹介したい。

一 広島大学におけるアクセシビリティ支援体制

広島大学では、「広島大学障害学生の就学等の支援に関する規則」、「身体等に障害のある者の入学者選抜及び就学等に関する相談の指針」、「身体等に障害のある学生に対する試験等における特別措置について（申し合わせ）」を制定し、これらの規則等に基づいて、障害学生支援を行っている。

支援の実施体制として、全学の意思決定機関「アクセシビリティセンター会議」（以下、センター会議）を、その下部機関に企画・立案を行う「アクセシビリティセンター

特集・先進的な障害学生支援の取組～障害学生支援ネットワークより～

会議「企画部会」を設置している。センター会議は、各部署（学部・研究科・専攻科）から選出された支援委員と、アクセシビリティセンター長が必要と認める若干名の教員で構成されている。センター会議での決定事項を実施するのが「アクセシビリティセンター」である。

アクセシビリティセンターは、「障害学生支援のためのボランティア活動室」を平成二〇年度に再編成したもので、教育担当副学長の直属におかれた、日常の支援の拠点である。アクセシビリティセンターには、センター長（兼任）、准教授、特任助教、情報支援コーディネーター、事務職員二名が業務に従事しているほか、ティーチングアシスタント四名とインターンシップ生などの学生スタッフ二〇～三〇名が活動している。

センターは、障害学生支援に関する相談窓口であると同時に、支援のコーディネート、支援方法の提案、支援機器の貸し出し、点訳や字幕作成等の支援活動などを担う支援の拠点である。また、「三」で詳しく述べる、授業や人材育成の場としても活用されている。

本学では、支援を希望する学生の申請を受けて、支援を行っている。支援の申請先は学生の所属学部で、申請を受けた所属学部が中心となって支援を実施することになって

いる。学生、教員、職員は、支援に関する疑問や具体的なサポート等について、アクセシビリティセンターへ相談・依頼できる。

学生の所属学部が中心となり、アクセシビリティセンターがバックアップをしながら、所属学部、学部間、学部とアクセシビリティセンターとの連携をはかりつつ、支援を実施する仕組みである（図1参照）。

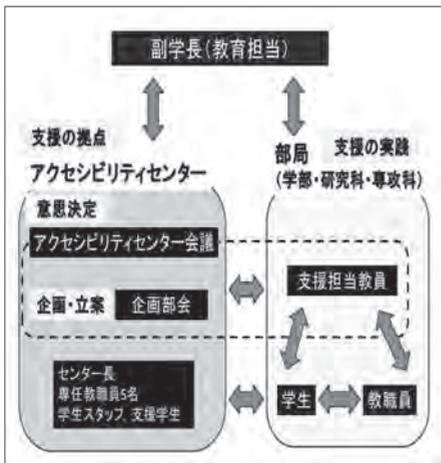


図1 広島大学のアクセシビリティ支援体制図

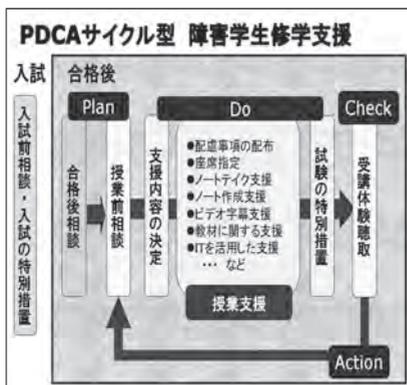


図2 PDCA サイクル型 障害学生修学支援

二 アクセシビリティ支援

本学のアクセシビリティ支援の特徴の一つは、障害の程度や授業の形式などの状況に応じた、最適な支援を選択・実施できる点である。そのために、支援の流れに「合格後相談」や「授業前相談」を組み込んだり、必要に応じて相談の場を設けたりして、随時、学生の意見を支援にフィードバックできる体制をとっている。また、アクセシビリティ

イセセンターでは、複数の支援内容の選択肢を用意しており、状況に応じて支援方法を組み合わせて、より適当な支援を実施できるように工夫している。一学期間（半年）を一つのサ

イクルと考え、各学期ごとに支援を実施し、学期末には障害学生へアンケートやインタビューで「受講体験聴取」を行う。受講体験聴取の内容は、次学期の支援に反映される（図2参照）。この支援のサイクルをくりかえすことで、卒業までの一貫した自立支援を行うことが可能となる。

三 教育・人材育成プログラム

障害学生支援がきっかけとなり、現在、支援者の育成や、アクセシビリティ・コーディネートができる人材育成の取り組みを拡充している。

障害や学内支援を知る機会として、全学生・教職員にむけて配信しているのが「オンラインアクセシビリティ講座」である。教養教育科目「障害者支援ボランティア概論」と「障害学生支援ボランティア実習」では、障害学生支援および支援者育成を行っている。また、多様なニーズを想定した環境づくりのコーディネート能力を育む科目「環境・情報アクセシビリティ研究」を開講している。

上記の授業を体系化した「アクセシビリティ教育課程」と「資格認定制度」からなる人材育成プログラムが「アクセシビリティリーダー育成プログラム」である（図3参照）。

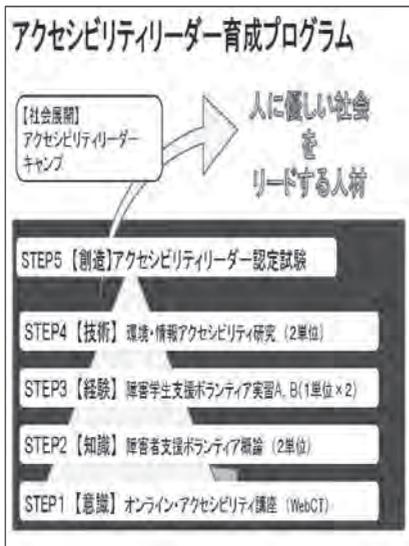


図3 アクセシビリティリーダー育成プログラム

このプログラムでは、平成一八年度よりこれまでに、九三名のアクセシビリティリーダー資格取得者を輩出してきた。資格取得者には、学内外におけるインターンシップの場を提供しており、現在二〇名以上のアクセシビリティリーダーが様々な現場で活躍中である。

このプログラムは、平成二〇年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」教育G Pに採用された。平成二一年六月には「アクセシビリティリーダー育成協議会」を設立し、行政・企業・他大学との連携を図りながら、来年度からの学内教職員や学外へのプログラムのオープン化

に向けて準備を進めている。

四 今後の展開

これまで本学では、学内アクセシビリティ支援、教育・人材育成プログラムの整備・拡充を進めてきた。今後は、これまでの取り組みの更なる充実と、その延長として新たな取り組みを展開して行きたい。

1 技術・研究開発…本学ではアクセシビリティセンターを中心に、ユニバーサルな教育支援方法の開発を手掛けてきた。特に、新たな情報保障の方法として音声認識技術の活用方法を研究開発しており、現在、リスピーク方式を試行中である。（平成二一年度「日本学生支援機構 障害学生の教育支援に関する調査研究委託事業「音声認識技術を活用したリスピーク通訳による教育支援方法の研究」）

2 地域との連携…これまでのアクセシビリティ支援は、キャンパス内の修学支援に限定されがちであったが、インターンシップ生の活躍や地域との連携により、支援の可能性が広がりがつつある。今後は、自治体のサービスの活用等により、大学生活全体のコーディネート

を目指して行きたい。

3 高次連携・障害のある中高生の大学進学促進と、障害学生支援体制に関する情報共有のため、近隣の中学校・高等学校の教諭を交えて研究会やセミナーを開催している。(平成二〇年度、日本学生支援機構「障害学生受入促進研究委託事業」中等教育と高等教育を滑らかにつなぐ、最適な評価方法とユニバーサルな教育・情報支援の研究)

以上、広島大学の取り組みの概要について述べた。本学の取り組みの詳細については、左記の資料を参考にさせていただきたい。これらの取り組みが、高等教育における障害学生支援や支援者育成の一助となれば幸いである。

【参考資料】

佐野(藤田)眞理子・山本幹雄・吉原正治(著)、広島大学大学院総合科学研究科(編集)

二〇〇九『大学教育とアクセシビリティ―教育環境のユニバーサルデザイン化の取組み』叢書インテグラール二〇〇七、丸善株式会社

佐野(藤田)眞理子・吉原正治(編集)

二〇〇四『高等教育のユニバーサルデザイン化―障害のある学生の自立と共存を目指して―』大学教育出版

広島大学 アクセシビリティセンター

二〇〇八『教職員のための障害学生就学支援のための手引き』

授業における情報保障を中心に(第三版)』

広島大学アクセシビリティセンターホームページ <http://www.achuhiroshima-u.ac.jp/>

achuhiroshima-u.ac.jp/